

釜石市民生児童委員協議会

(平成 26 年 6 月 16 日掲載)

(1) はじめに (岩手県釜石市の被災状況と現在の様子)

① 地域の状況 (一般的な状況)

当市の震災直前の人口は 3 万 9996 名 (平成 23 年 2 月 1 日) で、かつては、製鉄と漁業で栄え、数十年前には人口が 9 万名を超えたこともありました。しかし、新日本製鉄本社の合理化、漁業規模の縮小などにより人口が年々減少し、高齢化率は 34% を超え、地区によっては、限界集落や買い物難民の問題も生じていました

現在でも人口の減少は続いており、平成 26 年 1 月末現在の人口は 3 万 6912 名となっています。

② 釜石市民生児童委員協議会 (以下：民児協) の組織

・ 8 地区 139 名 (定数 147 名)

津波被害地区	とうに唐丹 (10 名)	みなみかまいし南釜石 (16 名)	ひがしかまいし東釜石 (22 名)	うのすまい鶴住居 (17 名)
津波無被害地区	なかづま中妻 (19 名)	こさきの小佐野 (24 名)	かつし甲子 (18 名)	くりはし栗橋 (13 名)

※被災後に定数を調整した地区 (南釜石、鶴住居、中妻、小佐野、甲子)

(2) 平成 26 年度を迎えて

当市では、震災時から平成 25 年度までを復興の基盤づくり期間、平成 26 年度からを本格復興の推進期間と位置づけています。市の復興計画が順調に推移すると、今後 3 年で災害公営住宅へ入居したり、住宅を自立再建する方が増えることが予想されます。

一方で、新たな課題が見えてくると考えており、今年度も引き続き、住民に寄り添いながらの活動を心がけていきたいと考えています。

さて、当市民児協では、昨年度に引き続き、他県他市町村の方がたに現状を直接視察いただくことで、震災の風化防止に取り組むこととしています。

今年度は、さっそく 4 月 11 日に東京都民生児童委員連合会の訪問を受け、有意義な情報交換を行なうことができました。東日本大震災の話題は、全国ニュースでも取りあげられますが、年月の経過とともに人それぞれの受け止め方に差が出ていると感じています。そのことはやむを得ないことですが、現在でも「被災地を見てみよう」、「何か支援できないか」と



26 年度最初の情報交換会は東京都民生児童委員連合会の皆様でした。身振り手振りで説明します。

と考えてくださる方もおり、その

方が同じ仲間の民生委員・児童委員であれば、より心強い支えとなります。今年度も視察依頼を可能な限り引き受け、震災の風化防止、支えとなる仲間づくりに取り組んでいきたいと考えています。

(3) 全国の委員の皆様へ

震災後、全国の民生委員・児童委員の皆様を中心に、さまざまなご支援をいただいていることに重ねて感謝申し上げます。新年度を迎え、心新たに地域福祉の推進に尽力していきたいと考えています。

改選期を乗り越え、欠員はあるものの委員相互に協力し合うことで、より結束力の強い民児協とするべく取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも、ご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。